

高知市国保運営基金の状況について

平成30年度の国保財政運営の県域化による事業費納付金の納付に伴い、本市の国保運営基金の残高は、令和元年度は決算積立後17.7億円であったが、単年赤字の運営が続き、令和4年度には基金が枯渇する状況となった。

<参考>令和4年3月28日 国保情報記事(抜粋)別添

○ 高知市国保運営基金及び高知県国保財政調整基金残高の状況 ※令和3年度末残高は見込み額

高知市国保運営基金残高

単位：千円

年度	R元	R2	R3	R4(見込)
決算積立後残高	1,770,000	1,230,000	850,000	450,000
基金取崩額	▲670,000	▲680,000	▲400,000	▲450,000
年度末残高	1,100,000	550,000	450,000	0

(参考) 高知県国保財政調整基金残高 (県資料より)

単位：千円

年度	R元	R2	R3
年度末基金残高	194,558	1,198,900	3,606,758
前年度差		+1,004,342	+2,407,858

<参考> 令和4年3月28日 国保情報記事（抜粋）

●都道府県国保 2年度4960億円の黒字 地方財政白書

総務省は25日の閣議に、地方公共団体の2年度決算を盛り込んだ4年版「地方財政の状況」（地方財政白書）を報告した。都道府県国保は、財源補填的な他会計繰入金を除き、繰出金を加えた「再差引収支」が4960億円（前年度1991億円）と、前年度に続き47都道府県全てで黒字を計上した。

前年度に比べ「再差引収支」の黒字は2969億円拡大した。都道府県国保の決算額は歳入11兆4835億円（△0.3%）、歳出10兆9840億円（△3.0%）となった。歳入の内訳は、前期高齢者交付金が3.6%増の3兆6251億円（31.6%）で最も多く、事業費納付金が△3.6%の3兆5362億円（30.8%）、国庫支出金が0.8%増の3兆3561億円（29.2%）で続いた。都道府県繰入金は△5.6%の5854億円（5.1%）だった。

歳出の内訳は、保険給付費等交付金が78.8%の8兆6525億円（△3.4%）で最多。うち普通交付金が8兆3737億円（△3.8%）だった。次いで、後期高齢者支援金等が14.2%の1兆5589億円（△1.9%）、介護納付金は5.2%の5689億円（1.4%増）だった。財政安定化基金を含む積立金は612億円（140%増）を計上した。